

生物多様性の保全

クボタグループは、事業活動によって地域の生物多様性に重大な影響を及ぼすことのないよう、様々な活動を通じて自然環境保護に努めています。

自然環境や生物多様性に配慮した活動の推進

クボタグループ環境基本行動指針への織り込み

クボタグループでは事業所でのビオトープの設置や緑化活動を推進していますが、2009年12月に生物多様性の保全及び持続可能な利用のために、クボタグループ環境基本行動指針に生物多様性に関する取り組み指針を織り込みました。今後も事業活動に伴う環境負荷を適切に管理し、多様な生態系の保護活動に取り組んでいきます。



枚方研修所の屋上緑化

ハイライト 田植機の減農薬機能による生態系保全

水田や畑などの耕作地は多様な生物が生息するための重要な環境基盤となっていますが、一方では農産物の安定した収穫のためには、耕作地への適切な農薬（除草剤・殺虫剤）の散布が欠かせません。しかし、広い面積の耕作地に適量の農薬を均一に散布することは難しく、耕作地の外に薬剤が飛散・流出したり、散布濃度が均一にならずに農産物に必要以上の濃度の薬剤が付着する（残留農薬）といったことが起こらないよう注意を払う必要があります。食の安全と環境保全の両面から、農薬の使用量と使用法を適切に管理することは現代農業の大きな課題です。



乗用田植機に搭載した「こまきちゃん」と「箱まきちゃん」

この課題解決のために、クボタの乗用田植機は、1990年代より田植えと同時に適量の除草剤を散布する装備（除草剤散布機）をオプションパーツとして供給してきました。また、更なる環境意識の高まりと農作業の負担軽減のニーズに応え、より効率的な除草剤散布機「こまきちゃん」とともに、箱施用剤散布機「箱まきちゃん」を市場に投入しています。近年は、ラジコンヘリコプター等を使用した航空防除（散布）の規制や、単位面積当たりの農薬の使用量や種類の管理の徹底が求められるなど、農業にも環境・安全面の配慮が必要になっています。これらの装備は自然環境・生態系への負荷を抑え、品質・環境の両面で安心できる農業に貢献しています。



除草剤散布機「こまきちゃん」

田植えと同時に適量の除草剤を確実に散布します。過剰な薬剤散布を抑え、環境負荷低減や経済性向上、作業者の負荷低減など多くの効果があります。



箱施用剤散布機「箱まきちゃん」

田植えと同時に適量の殺菌・殺虫剤を確実に散布します。従来は地面に置いた苗箱に手作業で薬剤をまいていましたが、散布機の利用により薬剤の周囲への飛散や散布量のムラがなくなるといった効果があります。

実践 Voice

農作業の負担を軽減し、農村の豊かな環境保全に貢献できれば幸いです。



(株)クボタ 堺製造所
作業機技術第二部

藤田 佳久

従来、広い水田への薬剤散布は、水田に入ってから作業をせざるをえず、作業者に大きな負担がかかっていました。また、薬剤の飛散による環境面への影響や作業者の吸い込みによる健康面への影響も心配でした。これらの散布機は作業の負担軽減に加え、薬剤使用量の正確な把握や環境面への影響の抑制、さらには過剰な薬剤散布を抑えられることによるコストダウンなど多くの効果があります。

昨今、農業への関心が高まっていますが、農業を担っている皆様やこれから農業を始められる方には、これらの装備をお使いいただくことで、農業を続けていただく一助になれば、また農村の豊かな環境を残し、多様な生物のすみかを保つためのお役に立てばと考えています。